

公立保育所適正化計画（案）住民説明会の意見と市の考えについて

1 住民説明会での発言要旨

(1) 小規模保育の必要性と多様性の確保

- ・児童数が少ないからといって保育を縮小するのではなく、多様な選択肢を確保すべき。
- ・小規模保育は必要であり、障がいのあるこどもの保育の観点からも小規模園を残すべき。
- ・公立保育園の持つ多様性を学ぶ機会は民間保育施設にはない大切な価値であり、閉園ありきで議論を進めることに反対。

(2) 閉園時期と小規模特認校制度との整合性

- ・令和9年度に富野小学校少人数特認校制度が始まるにもかかわらず、このタイミングで富野保育園が閉園になることへの強い違和感がある。特認校制度を成功させるためには富野保育園の閉園方針は障壁となるものであり、特認校制度の推進とその基盤となる地域の保育園閉園が矛盾している。
- ・地域への愛着を持って子育てをしたい市民にとって、保育園の閉園は市が掲げる手厚い子育て施策とはかけ離れた対応である。

(3) 転園におけるこどもの精神的負担と保護者への情報提供

- ・公立保育所適正化計画（案）発表以前に入園受付を行った在園児が卒園できるように、閉園時期の再検討をしてほしい。転園によるこどもの精神的負担を考えると、本来は、閉園方針を入園検討する時期に伝えて選択できるよう配慮すべきであった。

(4) 地域インフラとして保育園の重要性

- ・富野保育園が地理的に重要であり、閉園は地域の育児インフラの喪失につながる。
- ・閉園が人口減少を加速させ、市外への転出を招く可能性を高めることになる。

2 意見に対する検討事項

- ①公立保育園の特色・良さの継続
- ②在園児の卒園配慮・転園への不安
- ③小規模保育環境が適している子の小規模保育体制の継続
- ④加配・療育体制の継続
- ⑤民間保育施設での保育体制
- ⑥説明不足・地域意見の反映不足

3 検討事項（不安や心配な意見）に対する市の対策・考え方

①公立保育園の特色・良さの継続

意見	対応策
・公立保育園の特色ある保育が失われる	<ul style="list-style-type: none"> ・公立保育園の特色の一つである自然保育は公立保育園だけのものではなく、本市の保育の特色として希望する民間保育施設すべてで体験できるよう広げ、すべての児童に提供していきます。 ・自然保育を民間保育施設でも実施できるよう共同実施や必要な研修・支援を実施します。
・公立保育園を閉園しないほしい	<ul style="list-style-type: none"> ・答申に基づき公立保育園は縮小・閉園を進めますが、公立保育園すべてを無くすことではありません。 ・公立保育園・民間保育施設がそれぞれの役割を担い、持続可能な保育体制を確保します。
・手厚い保育体制が失われる	<ul style="list-style-type: none"> ・民間保育施設で一層の保育士配置を進めるために公私立共通の本市独自の保育士配置基準を定め、保育士確保に努めるとともに、各園が特色ある保育を充実できるように必要な財政的支援を行います。 ・公私立に関係なく、すべてのこどもたちが必要な保育を受けられる体制を目指します。

②在園児の卒園配慮・転園への不安（閉園時期の見直し）

意見	対応策
・閉園時期の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度入園申込みの際に閉園方針を伝えることができていません。 ・現在の在園児の不安に配慮した閉園時期に見直します。
・転園に対する負担や不安	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する園に転園できるよう最大限配慮します。 ・公立保育園を希望される場合、希望する公立保育園で必ず受入れします。 ・園児同士の交流機会づくりを定期的に行います。 ・児童と関わりの深い保育士を児童の転園先で保育できるよう配置します。
・経済的負担の心配	<ul style="list-style-type: none"> ・民間施設を希望される場合は、転園希望園に対し、負担軽減について調整を行います。 ・公立保育園であれば、新たな経済的負担は生じません。

③小規模保育環境が適している子の小規模保育体制の継続

意見	対応策
・小規模園の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模園にこだわらず、運営する園で児童に適した保育体制を整えます。 ・現在、配慮を要する児童は、小規模園に限らず受入れを行っています。

④加配・療育体制の継続

意見	対応策
・加配保育士の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の確保を進めます。 ・障がい児等保育事業補助金により、市独自の財政支援を実施しています。
・現状の療育体制の縮小	<ul style="list-style-type: none"> ・関わりの深い保育士を園児の園に配置することで保育・療育体制を維持します。 ・親子教室や子ども家庭センター発達相談支援係において園巡回指導等必要な支援を行います。

⑤民間保育施設での保育体制

意見	対応策
<ul style="list-style-type: none"> ・保育士不足 ・児童の受入れ拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間保育施設で一層の保育士配置を進めるために公私立共通の本市独自の保育士配置基準を定め、保育士確保のための財政的支援を行います。
・自然保育など特色ある保育の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士配置を促進するとともに、特色ある保育に必要な研修や費用の支援を拡充します。

⑥説明不足・地域意見の反映不足

意見	対応策
・今回の説明や方針があまりにも一方的で、すでに閉園ありきに見える。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数の減少と市全体の施設存続の方向性を踏まえた総合的な判断に基づく方針です。今後の人口減少・少子化の進行を踏まえ、将来を見越した市全体のこどもの保育の確保のための判断です。
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の状況が反映されていない。 ・子ども・子育て会議委員に地域代表が入っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の地域における保育園の維持という観点ではなく、市全体の子どもたちを公立・私立保育園・幼稚園・認定こども園を含めた市全体の施設で受入れるためという観点で検討しました。 ・子ども・子育て会議委員は選出基準があり、特定の地域代表という選出は行っていません。

<p>・説明会が平日夜で、小さい子を持つ保護者が参加しづらい。保護者が参加しやすい工夫が必要だった。</p>	<p>・保護者説明会は多くの皆さんに参加していただけるよう、事前にスケジュール調整を行い、曜日や時間を設定しました。また、参加されなかった保護者には、改めての説明会の実施について意向確認を行い、後日説明しました。</p>
<p>・これまでの説明だけでは不安や心配が解消できていない。</p>	<p>・6月から保護者と個別面談を複数回実施し、不安や心配の解消に努めます。</p> <p>・計画が決定しましたら、改めて保護者や住民の皆さんを対象とした説明会を実施します。</p>

4 これまでの保護者説明会を踏まえた意見と市の考え

◆富野保育園 保護者意見のまとめ

1 「地域特性・選択理由を無視しないでほしい。」

富野保育園を選んだのは市街地と距離を置く環境（感染症リスク低減、自然環境、地域のつながり）や小規模の良さがあるからである。単なる行政の効率化方針でこうしたニーズを切り捨てられるのは納得できない。地域の事情を尊重してほしい。

回答

・閉園は富野保育園の質の問題ではなく、児童数の減少と市全体の施設存続の方向性を踏まえた総合的な判断です。人口減少・少子化を踏まえ、将来を見越して限られた人と財源を市全体のこどもの保育の確保という観点で検討した結果です。

2 「審議会委員の構成や意思決定に地域の状況が含まれていない。」

子ども・子育て会議に地域代表が入っていないなど、審議会委員の構成や実際の検討状況に地域の実情が踏まえられていないと感じる。この富野保育園の良さを理解していない委員による決定過程に納得できない。

回答

・子ども・子育て会議委員は選出基準があり、特定の地域代表という選出は行っていません。特定の地域における保育園の維持という観点ではなく、市全体のこどもたちを公立・私立保育園・幼稚園・認定こども園を含めた市全体の施設で受入れるためという観点での検討を依頼しているものであり、富野保育園の良さを否定したものではありません。

3 「在園児・新入園児が卒園まで保育を受けられない残念さ」

最近入園した年少児やこれから入園を予定していたこどもが、入園後に園が閉園され卒園まで見届けられない可能性があるのは残念で不満である。せめて在園児の卒園ができるよう配慮してほしい。

回答

・例えば、少人数のみの保育園運営は、集団によるこどもの育ちの観点からみても望ましい保育ではありませんが、配慮が足りませんでした。市としては、閉園時期の見直しをします。また、転園については、希望の入園に沿えるよう、代替保育園の用意に最大限の配慮をします。

4 「転園先の受入れ・加配・生活支援に不安」

近隣の民間園が本当に受け入れ可能であるか疑問である。富野保育園に入園した理由は富岡保育園の入園に漏れたためである。特に加配や療育が必要なこどもについては民間保育施設で受入れを断ることも多く、継続的に支援が受けられるのか疑問である。

回答

・現在、民間保育施設は少子化により保育士確保など入園児数受入れ体制の充実に躊躇されていると思います。民間保育施設等保育に本市の保育の中心的役割を担っていただくためには、公立保育園の縮小・閉園方針を打ち出し、民間保育施設に受入れ体制の充実を進めていく必要があります。

5 「地域の将来（人口定着・コミュニティ維持）への影響」

令和9年度からの小規模特認校の開始に向け、富野地域は頑張ろうという気持ちになっている矢先の閉園方針は、行政の施策の一貫性が感じられない。保育拠点の喪失が子育て世代の流出や地域の魅力低下につながるのではないかと大変心配している。富野保育園が果たす地域活性化の役割の大きさを理解してほしい。

回答

・小学校は義務教育の中で小規模特認校制度を選ばれたものであり、一方、保育行政は、保護者の保育の必要性に応じるもので異なるものです。市としては、特定の地域にのみ考慮するのではなく、公私立保育園全体の運営を進めていく必要があるための判断です。

◆南ヶ丘保育園 保護者意見のまとめ

1 公立保育園の「きめ細かい保育・自然体験」が失われることへの懸念

南ヶ丘の戸外・自然保育や少人数での細やかな関わり（園庭での遊び、フィールド活動、保育士の目配り等）を高く評価しており、閉園でこうした教育的価値が失われることを心配している。民間保育施設で同等の体験が継続できるか疑問である。

回答

・これまでは、公立保育園の保育の質の向上に努め、待遇・保育環境改善による保育士確保と加配、研修制度の充実、特色ある保育の充実に注力してきた結果です。今後は、公立保育園でこの体制を継続し続けるのではなく、私立保育園でも同様な保育体制を構築していただけるよう、財源や人員配置を私立保育園の充実にシフトしていくものです。

2 支援が必要な子（加配等）の受け皿不安

発達特性を持つ児童や加配が必要な児童が、公立の小規模園で受けられていた手厚い支援を民間保育施設で継続できるかがとても不安である。民間保育施設で加配を受けられない、断られる事例が既にあったため、南ヶ丘保育園に入園した経緯がある。個別支援の手厚さなど公立保育園の良さを大変感じているため南ヶ丘保育園を残してほしい。

回答

・私立保育園における保育士確保など体制整備を充実していただくことで、公立保育園と同様の保育体制を構築していただくよう協働して進めます。

3 転園による子どもの心理的・経済的負担への配慮不足

特に年長児の年度途中・卒園間近での転園はこどもにとって精神的負担が大きく、保護者には持ち物購入等の経済的負担も発生する。閉園時期の見直し（延長含む）や負担軽減策はどのように考えているか。

回答

・年長児数名のみで保育を行うことはこどもの育ちの観点で考えていません。
・経済的負担の軽減策は検討を進めます。

4 閉園決定プロセスの拙速さ

令和8年度の入園が決定した今となって2年後の閉園方針はあまりにも性急ではないか。この方針がわかっていたら別の園を選んだかもしれない。閉園時期などの見直しはできないか。

回答

・入園児数予測と在園児数の推移、受入れ体制の準備期間等を総合的に判断し、この閉園方針となりました。
・答申が令和8年2月になったことによりこの時期の説明ではありますが、配慮が足りませんでしたので、閉園時期を見直しします。

5 小規模園の存在意義（多様な育ちの場）の喪失を懸念

大規模園中心の再編は効率的かもしれないが、少人数での育ちを必要とするこどもや地域性・自然を生かした保育を求める家庭の選択肢が減ることを問題視している。民間保育施設では、とても公立保育園と同様な保育の質の向上は見込めないと感じる。公立保育園の良さ、小規模園のメリットを存続させてほしい。

回答

・人口減少・少子化が進行しており、今後も一層進むと予測されている現在において、関市全体のこどもを関市全体の保育施設で受入れるという観点での検討結果です。

◆倉知ふれあいセンター参加者 発言の要約

①公立保育園の特色・良さの継続

- ・公立と私立で定員を減らす対応に差がある理由を知りたい。公立保育園の特色や場所・保育内容をもっとPRしてきたのか疑問。公立保育園の情報発信不足が利用減の原因ではないか。
- ・富野保育園の統廃合は地域にとって大きな問題。今いる子どもだけでなく、今後生ま

れる子どもたちが入れなくなるのは不公平ではないか。

- ・富野地域の子どもたちが「犠牲」になっているように感じる。地域の将来も含めて、子ども・子育て会議で十分に議論されたのか疑問。
- ・南ヶ丘保育園などは、多様性に触れられる地域の大事な資源であり、閉園で失われる価値をもっと重く考えてほしい。

②在園児の卒園配慮・転園への不安

- ・富野保育園がなくなった場合、園児はどこへ通うことになるのか知りたい。
- ・最寄りの園が遠い場合、保護者の送迎負担が大きすぎる。バス送迎や長時間送迎は子どもにとって良い保育とは言えない。
- ・定員が減るほど保護者の負担は増える。送迎時間の上限など、子どもと家庭の負担をもっと考えるべき。

③小規模保育環境が適している子の小規模保育体制の継続

- ・障がい児や配慮が必要な子どもにとっては、小規模園の方が合う場合がある。むしろ小規模園を残すほうが選択肢として望ましいのではないか。

④民間保育施設での保育体制

- ・民間化や支援策はまだ何も決まっていないように見えるのに、なぜ閉園だけ先に決めるのか納得できない。保育士配置や受け入れ先の確保も本当に可能なのか不安。

⑤説明不足・地域意見の反映不足

- ・今回の説明や方針があまりにも一方的で、すでに閉園ありきに見える。保護者や卒園児保護者など、もっと広い範囲に説明すべきだったのではないか。
- ・認定こども園の仕組みが保護者に十分伝わっていない。保育課程と幼稚園課程の違い、夏休みの扱い、年齢ごとの保育の継続などを、きちんと説明してほしい。
- ・説明会が平日夜で、小さい子を持つ保護者が参加しづらい。保護者が参加しやすい工夫が必要だった。
- ・パブリックコメント制度を初めて知った。公立保育園全体の問題なのだから、対象の保護者全員にもっと周知してほしい。
- ・パブリックコメントの内容とスケジュールの説明が不十分。参加できない保護者には情報が届かず、不公平だと感じる。
- ・「9年度閉園」が前提のように見えるが、本当にこのまま変わらないのか。もっと柔軟に考える余地があるのではないか。

◆富野ふれあいセンター参加者の発言要約

①公立保育園の特色・良さの継続

- ・私立より公立の方が子どもにとって良い保育だと感じている。公立保育園は地域に根差し、縦割り保育なども含めて価値があるので、財政面だけで減らすのは反対。
- ・富野保育園の良さは地域に根ざした保育にある。小規模特認校の方針と保育園閉園は整合しない。地域を盛り上げる流れと逆行しているのではないか。
- ・富野保育園は地域の保育・子育ての基盤であり、地理的にも重要。閉園は少子化を加

速させるおそれがある。公立を減らすのではなく、地域や園同士の連携で維持・改善を考えるべきである。

- ・長年温かく育ててもらっており、急に令和9年度末閉園と言われても納得できない。市として人口増加策や定住促進策を本当にやってきたのか疑問。
- ・富野保育園は地域の愛着を育てる場であり、閉園は地域や人口の衰退を招く。小学校存続に向けた地域の努力とも逆行している。
- ・富野保育園や跡地の経済的価値も考えるべき。建物を維持・活用する方が、解体・放置よりも経済的ではないか。
- ・公立保育園は、働く保護者にとって安心して預けられる重要な受け皿。コストだけでなく、就労支援としての役割も重視してほしい。

⑥説明不足・地域意見の反映不足

- ・令和9年度の閉園方針は、小規模特認校の開始時期と矛盾しているように見える。富野地域に住みたい人もいるので、前提条件が変わった以上、閉園時期は再検討すべきではないか。
- ・昨日の説明会の参加者が少なく、周知不足ではないか。住民への回覧板なども含め、もっと広く知らせるべき。保護者説明会も再度開催してほしい。
- ・保護者向けアプリ「ルクミー」には周知が来ていない。園ごとの連絡手段に差があっても、全保護者に確実に届く方法で案内してほしい。
- ・広報やスグール配信に、どの園がいつ閉園するかという最重要情報が書かれていない。PDFやホームページへの案内も含め、もっと具体的に再周知してほしい。
- ・重要な計画なのに一般市民が知らないまま進んでいる。地域住民の意見、小規模特認校の考え方も含め、もっと尊重し、急ぎすぎず進めてほしい。
- ・「これから子どもが減る」という説明だけでなく、これまで何をしてきたのか、今後何をするのが見えない。人口減少を止め、関市に住み続けてもらう具体策を知りたい。
- ・閉園は乱暴だと感じる。転園は子どもと保護者の負担が大きく、少子化対策の観点からも削るべきではない。
- ・自分は引っ越してきた時、幼稚園や小学校がある点に魅力を感じた。急に無くなるのはつらい。子ども・子育て会議の内容がどう計画に反映されるのか知りたい。未入園児への配慮も気になる。
- ・既に入園受付をした後に方針を知らされるのは不公平。年長まで富野で卒園できるよう、転園時期は遅らせて再検討してほしい。
- ・計画案が実行に移るまでの具体的なスケジュールを知りたい。いつ最終決定されるのか、どの手順を経るのか確認したい。
- ・前回資料と今回資料で表現が変わった理由を知りたい。「基幹施設」から「拠点施設」に変えたのはなぜか。
- ・「在園児」という表現がなくなったのはなぜか。0～2歳児の受け入れなど、保育園全体の課題を踏まえて市全体の保育計画を示すべきではないか。

◆わかくさ・プラザ総合福祉会館 参加者の発言要約

①公立保育園の特色・良さの継続

- ・閉園によって保育の質が本当に上がるのかが見えない。自然保育など富野の良さを選べる選択肢が狭まるのは問題ではないか。
- ・民間園に公立保育園の良さを移すのは難しい。保育園の自然環境や先生方の熱意を簡単に失ってほしくない。説明会やパブコメが「既成事実化」のために見える。
- ・公立保育園の良さを民間に引き継ぐには、もっと市民が納得できる時間と手順が必要だった。残したい園の園長先生の思いも現場で見て感じてほしい。
- ・保育園をなくすことはコスト削減では済まない。地域の人口流出や少子化加速につながる。地域の町おこしや保育園の魅力発信も合わせて考えるべき。
- ・富野地域は小規模特認校とも関係があり、保育園は地域の基盤。小学校とあわせて地域の将来を支える施設なので、閉園は見直してほしい。
- ・少人数でも子ども同士の関係が深くなり、悪いことばかりではない。園児が少ないことを一律にマイナスとせず、小規模の良さも見してほしい。
- ・子どもが少ない園でも、名前を覚えやすく密な関係が築けるなど良さがある。少人数を悪いこととして扱わないでほしい。

②在園児の卒園配慮・転園への不安

- ・市長方針として、公立より民間中心へ移行する流れがあり、子ども・子育て会議でも議論してきたと理解している。ただ、移行が2年でよいのか、もっと慎重であるべきではないか。
- ・年長児がいる家庭にとって、転園は心理的負担が大きい。なぜ子どもの負担よりも集団保育を優先するのか。閉園方針は覆らないのか。

⑤民間保育施設での保育体制

- ・民間へ移行した後、保育士の確保や経営破綻、重大事故が起きた場合、市はどう責任を取るのか。民間に任せるだけなのか不安。

⑥説明不足・地域意見の反映不足

- ・南ヶ丘・富野保育園の閉園時期がなぜ今なのか疑問。子ども子育て会議の委員は、実際に保育現場を視察したのか、現場を見ずにデータだけで決めていないか不安。
- ・公立保育園の質が低いから閉園するように聞こえるが、そうではないなら、なぜ公立保育園だけを縮小するのか。民間移行の具体的なロードマップが見えず、「努力します」だけでは不安。
- ・子ども子育て会議で5回の議論で3園閉園を決めるのは「慎重」とは言えない。もっと保護者に情報提供すべきだった。2年という短期間でなぜ閉園を進めるのか納得できない。
- ・子ども子育て会議の答申で、最初から保育園名が挙がっていたのか疑問。会議の委員構成に第三者性が十分あるのかも知りたい。年度途中閉園は急すぎる。
- ・住民説明会やパブコメの周知が不十分。参加者が少ないのは問題で、回覧板や園アプリなどを使って全保護者にもっと確実に知らせるべき。

- ・公立保育園に通わせている保護者として、急な閉園方針は受け入れられない。子ども・子育て会議の開催日程や公開の有無を知りたい。